

# 総合人間科学系 教職支援センター

## 「伊勢参宮旅行（修学旅行）」と 「帝都」の子どもたち

近代日本教育史を専門として、戦前の小学生の修学旅行の研究をしています。1930年代は伊勢神宮へ修学旅行に行く学校が多かったのです。東京の児童の伊勢神宮参拝者数のピークは1939年。卒業学年の6年生を母数に計算すると、約8割の子どもが参拝しました。旅行の文化が一般的になってきた時代といえども、修学旅行は格別。旅行記には、子どもたちの楽しい思い出が記されています。遠路はるばる夜行列車での旅は、なかなかの強行軍。それでも伊勢神宮が選ばれた国粋主義的な時代背景と、それを支える国家・教育界・そして教師たち。強く印象を残す体験活動と、国民統合の理念について、深掘りしています。

### 教職支援センター



橋本 萌 助教

お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程修了（博士 社会科学）お茶の水女子大学非常勤講師、東京保育専門学校専任教員を経て現職。

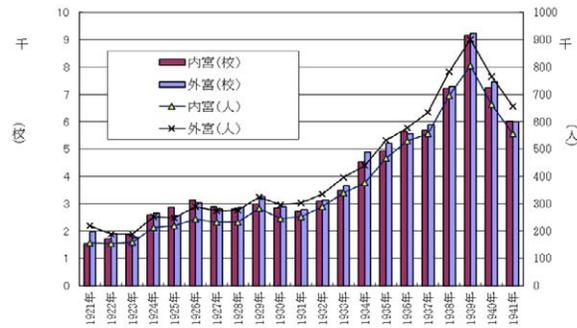
### 研究から広がる未来

歴史研究は、現代的課題の問題解決に直結するものではないかもしれませんが、人類が経験してきた社会現象から学ぶことは多くあります。今日、観光業は大きな産業となっていますが、そうした基盤は、戦前期から積み上げられてきた側面があります。教育的には体験活動による教科横断的学びの重要性が言及されています。伊勢神宮という「聖地」が目的地となっていることから、国家と教育の関係についても、重要な視点を投げかける研究対象であるといえます。

### 卒業後の未来像

教育実践は教育の理論や原理的な理解なしには成り立たないといえるでしょう。実践の骨組みとなる制度、制度を形作る理念について学び、よりよい教育実践につなげてほしいと願っています。

【図】 内宮・外宮参拝小学校数及び児童数



（備考）神宮司庁編『神宮便覧』（1925年、1928年、1934年、1940年、1942年）より作成。



六花出版 2020年



松本市は教育史研究の宝庫  
（右上から、旧山辺学校校舎、二宮金次郎像、オルガン、左上、旧松本高等学校校本館、左下、旧開智学校 撮影・橋本）